

## 中学校 音楽科 シラバス

### 3年間のねらい 学習目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

[中学校学習指導要領（平成30年告示）より]

|                          |     |                               |
|--------------------------|-----|-------------------------------|
| 第1学年<br><br>音楽<br>(週2時間) | 教科書 | 中学生の音楽1、中学生の器楽（教育芸術社 702 752） |
|                          | 教材  | アルトリコーダー、五線ノート、ICT機器、他        |

※アルトリコーダーは新型コロナウイルス感染状況等により使用出来ない場合があります。

### 学習到達目標

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的、協動的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

### 学習方法

歌唱においては、斉唱・混声2部合唱、器楽ではアルトリコーダーを使用して2～3重奏を行う。鑑賞では、CD・DVD・ICT機器、楽器実演奏、を用いる。1年間を通して音楽の幅広い知識を養い、音楽的な知覚と感受性を主体的、対話的に学習する。

### 評価の観点

|              | 知識・技能  | 思考・判断・表現   | 主体的に学ぶ力・人間性等  |
|--------------|--|--|---|
| 評価<br>規<br>準 | 各項目の内容において、楽曲の背景や知識を理解した上で、音楽的な知覚や感受をもとにした基本的な歌唱法や奏法を身につけているか等を評価の基準とする。 | 各項目の内容において、曲想や音楽の構造などを理解した上で、それに必要な判断を交えた工夫を生かした音楽表現ができていないかを評価の基準とする。 | 各項目の内容において、集団行動への参加、その中で自己の表現が主体的、対話的にできているか等を評価の基準とする。 |

### 年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週2時間> ※新型コロナウイルス感染状況等により内容に大幅な変更をする場合があります。

| 学期      | 学習内容・項目   | 学習のポイントと到達目標  | 評価の観点   |
|---------|---|---|---|
| 1<br>学期 | 1. 歌唱<br>「We'll Find The Way」<br>「その先へ」<br>「主人は冷たい土の中に」<br>（フォスター）<br>「エーデルワイス」<br>「浜辺の歌」（成田為三） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな声と正しい姿勢で堂々と歌い、美しい響きを作ることを身につける。</li> <li>・近代アメリカ音楽とフォスターについて学習する。</li> <li>・リコーダーと歌のアンサンブルを楽しむ。</li> <li>・映画の中の音楽の位置づけを理解する。</li> <li>・ハ長調の階名に慣れる。</li> <li>・曲に合わせた発声や、言葉を理解して歌う。</li> <li>・詩の内容を大切に歌唱する。</li> </ul> | <p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽への関心、意欲、態度</li> <li>・音楽的な知覚と感受</li> <li>・表現の技能と工夫</li> <li>・鑑賞の能力</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 期末考査</li> </ol> <p>楽曲の生まれた背景や</p> |

|             |  |   |  |
|-------------|--|---|--|
|             | <p>2. 器楽<br/>基礎的な知識と初歩的な演奏法<br/>「喜びの歌」「さんぽ道」「かっこう」「そっとやさしく」「カノン12」「オーラリー」等</p> <p>3. 鑑賞<br/>「The Sound of Music」「魔王」(シューベルト)</p> <p>4. 楽典<br/>「音楽の約束」</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的なリコーダーの歴史や知識、構造や種類を理解する。</li> <li>初歩的な演奏方法を習得し、正しい姿勢で演奏をする。</li> <li>タンギングに気をつけて演奏する。</li> <li>親しみやすく易しいメロディーを、一緒に演奏する。</li> <li>2つのパートに分かれて演奏し、ハーモニーを感じ取る。</li> <li>ミュージカル映画の鑑賞を楽しむ。</li> <li>シューベルト、ゲーテについて学習する。</li> <li>詩の内容を理解しながら鑑賞する。</li> <li>曲の表情や速さ、強弱などを表す記号、標語について学び、より深く曲を理解するための手立てとする。</li> </ul>              | <p>詩の内容、作詞・作曲家、器楽、楽典についての知識・理解を問う問題を出題する。</p> <p>2. 実技テスト<br/>大きな声で堂々と歌えているか、基本的な奏法を身につけているか等を評価する。</p> <p>3. ノート<br/>プリント教材の整理、学習ノートが作成できているか等を評価する。</p> <p>4. 授業の取り組み<br/>集団行動に参加し、自己の表現が主体的、対話的にできているか等を評価する。</p> |
| 2<br>学<br>期 | <p>1. 歌唱<br/>「赤とんぼ」(山田耕筰)<br/>「朝の風に」<br/>「君をのせて」<br/>「Let's Search For Tomorrow」</p> <p>2. 器楽<br/>「アニーローリー」「虹の彼方に」「カノン3」「きらきら星」「威風堂々」「木かげの思い出」「ふるさと」「春」</p> <p>3. 鑑賞<br/>「春」(ヴィヴァルディ)<br/>雅楽「平調 越天楽」</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>三木露風、山田耕筰について学習する。</li> <li>詩の内容や、言葉と旋律の関係を考えながら歌唱する。</li> <li>混声二部合唱を通して、ハーモニーを工夫する。</li> <li>音名と階名、ト音へ音譜表を学習する。</li> <li>変声期について学習し、無理のない声での歌唱を試みる。</li> <li>単旋律の演奏や2重奏を通して、アーティキュレーションを工夫して演奏する。</li> <li>サミングを行い、より滑らかな運指を目指す。</li> <li>ヴィヴァルディについて学習する。</li> <li>イタリアの風土と音楽を学習する。</li> <li>使用楽器の特徴や曲構成を理解し、鑑賞する。</li> </ul> |  |
| 3<br>学<br>期 | <p>1. 歌唱<br/>「Forever」「あすという日が」「COSMOS」等</p> <p>2. 器楽<br/>「星の世界」</p> <p>3. 鑑賞<br/>箏曲「六段の調」<br/>「日本の民謡」<br/>「アジアの諸民族の音楽」</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>混声合唱を通して、ハーモニーの美しさを感じ取りながら歌う。</li> <li>これまで習得してきた技術をもとに、アンサンブルを楽しむ。</li> <li>尺八や箏、三味線、日本の民謡を通して我が国の伝統音楽を理解する。</li> <li>尺八や箏、三味線に実際に触れさせる。</li> <li>アジア諸国の様々な楽器の音色を鑑賞。</li> </ul>   |  |

|                      |     |                                  |
|----------------------|-----|----------------------------------|
| 第2学年<br>音楽<br>(週2時間) | 教科書 | 中学生の音楽2・3上、中学生の器楽(教育芸術社 803 752) |
|                      | 教材  | アルトリコーダー、五線ノート、ICT機器、他           |

※アルトリコーダーは新型コロナウイルス感染状況等により使用出来ない場合があります。

### 学習到達目標

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

### 学習方法

歌唱においては、斉唱・混声2～3部合唱、器楽ではアルトリコーダーを使用して2～3重奏を行う。鑑賞では、CD・DVD・ICT 機器、楽器実演奏、を用いる。1年間を通して音楽の幅広い知識を養い、音楽的な知覚と感受性を主体的、対話的に学習する。

### 評価の観点

|      | 知識・技能  | 思考・判断・表現  | 主体的に学ぶ力・人間性等  |
|------|--|---|---|
| 評価規準 | 各項目の内容において、楽曲の背景や社会的及び歴史的知識を理解した上で、音楽的な知覚や感受をもとにした基本的な歌唱法や奏法を身につけているか等を評価の基準とする。 | 各項目の内容において、曲想や音楽の構造などを深く理解した上で、それに必要な判断を交えた工夫を生かした音楽表現ができているかを評価の基準とする。 | 各項目の内容において、集団行動での一員として、その中で自己の持つ表現力を主体的、対話的に発揮できているか等を評価の基準とする。 |

### 年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週1時間> ※新型コロナウイルス感染状況等により内容に大幅な変更をする場合があります。

| 学期  | 学習内容・項目   | 学習のポイントと到達目標  | 評価の観点  |
|-----|---|---|--|
| 1学期 | 1. 歌唱<br>「夢の世界を」<br>「翼をください」<br>「夏の思い出」(中田喜直)<br>「夏の日の贈りもの」<br><br>2. 器楽<br>「ラヴァースコンチェルト」<br>「海に見える街」等<br><br>3. 鑑賞<br>「フーガ ト短調」<br>(J.S.バッハ)<br><br>4. 楽典<br>「音楽の約束」 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2部合唱を通して、ハーモニーの美しさを感じ取りながら歌う。</li> <li>・美しい声で、正しい姿勢で堂々と歌い、美しい響きを作ることを身につける。</li> <li>・中田喜直の生涯や作風を理解する。</li> <li>・詩の内容や言葉と旋律を理解して歌唱。</li> <li>・アーティキュレーションや、様々な運指に気をつけて演奏する。</li> <li>・バッハやバロック時代について学習する。</li> <li>・宗教音楽や多声音楽を鑑賞する。</li> <li>・パイプオルガンの構造について学習する。</li> <li>・単純拍子と複合拍子、1～3部形式を理解する。</li> </ul> | <b>【評価の観点】</b><br>・音楽への関心、意欲、態度<br>・音楽的な感受や表現の工夫<br>・表現の技能<br>・鑑賞の能力<br><br><b>【評価方法】</b><br>1. 期末考査<br>楽曲の生まれた背景や詩の内容、作詞・作曲家、器楽、楽典についての知識・理解を問う問題を出題する。<br>2. 実技テスト<br>曲種に応じた発声や美しい言葉の表現を生かして、曲にふさわしい歌唱表現を身につけているか、曲にふさわしい音色や奏法を身につけているか等を評価する。 |
| 2学期 | 1. 歌唱<br>「荒城の月」(滝廉太郎)<br>「サンタルチア」<br>「Joyful Joyful」<br>「メッセージ」<br><br>2. 器楽<br>「Edelweiss」   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・土井晩翠、滝廉太郎について学習する。</li> <li>・イタリア風土、カンツォーネについて学ぶ。</li> <li>・イタリア語の歌唱を試み、のびのびと大きな声で歌う。</li> <li>・詩の内容を理解しながら歌う。</li> <li>・諸外国の民謡の理解。</li> <li>・アーティキュレーションや、高度な運指に気をつけて演奏する。</li> </ul>  | 3. ノート<br>プリント教材の整理、学習ノートが作成できているか等を評価する。  |

|             |  |  |   |
|-------------|--|--|---|
|             | 「美女と野獣」等<br>3. 鑑賞<br>「交響曲第5番ハ短調」<br>(ベートーヴェン)<br>4. 楽典 調性(1)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現を工夫して旋律を作る。</li> <li>・ベートーヴェン、古典派時代について学習する。</li> <li>・ソナタ形式を理解する。</li> <li>・オーケストラの編成や、使用楽器について学習する。</li> <li>・長調、調性の持つ意味について学習する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>る。</li> <li>4. 授業の取り組み<br/>集団行動に参加し、自己の表現が主体的、対話的にできているか等を評価する。</li> </ul> |
| 3<br>学<br>期 | 1. 歌唱<br>「やさしさに包まれたなら」「夏は来ぬ」「大切なもの」等<br>2. 器楽<br>「千の風になって」等<br>プリント教材 等<br>3. 鑑賞<br>「アイダ」(ヴェルディ)<br>歌舞伎・長唄「勸進帳」<br>「郷土の祭りや芸能」<br>「世界の諸民族の音楽」等<br>4. 楽典 調性(2) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・混声合唱を通して、ハーモニーの美しさを感じ取りながら歌う。</li> <li>・曲にふさわしい表現を工夫する。</li> <li>・これまで習得してきた技術をもとに、アンサンブルを楽しむ。</li> <li>・演劇、歌、舞台が一体となった作品を鑑賞する。</li> <li>・文楽、歌舞伎、民謡を通して我が国の伝統音楽を理解する。</li> <li>・世界各地の様々な楽器や音楽に触れさせる。</li> <li>・短調、調性の持つ意味について学習する。</li> <li>・移調の必要性について理解する。</li> <li>・日本の様々な音階について学習をする。</li> </ul> |   |

|                      |     |                                   |
|----------------------|-----|-----------------------------------|
| 第3学年<br>音楽<br>(週2時間) | 教科書 | 中学生の音楽2・3下、中学生の器楽 (教育芸術社 804 752) |
|                      | 教材  | アルトリコーダー、五線ノート、ICT機器、他            |

※アルトリコーダーは新型コロナウイルス感染状況等により使用出来ない場合があります。

**学習到達目標** 第2学年に同じ。

**学習方法** 第2学年に同じ。

**評価の観点**

|      | 知識・技能   | 思考・判断・表現   | 主体的に学ぶ力・人間性等  |
|------|---|--|---|
| 評価規準 | 各項目の内容において、楽曲の背景や社会的及び歴史的な知識を十分理解した上で、音楽的な知覚や感受をもとにした応用的な歌唱法や奏法を身につけているか等を評価の基準とする。 | 各項目の内容において、曲想や音楽の構造などを深く理解した上で、それに必要な適切な判断力を交え、工夫を生かした音楽表現ができているか等の評価の基準とする。 | 各項目の内容において、集団行動の取り組み、その中でさらなる工夫をこらした自己の表現を主体的、対話的に実現できているか等を評価の基準とする。 |

**年間シラバス** (1年間の学習予定表)

<週1時間>

※新型コロナウイルス感染状況等により内容に大幅な変更をする場合があります。

す。

| 学期 | 学習内容・項目 | 学習のポイントと到達目標 | 評価の観点 |
|----|---------|--------------|-------|
|----|---------|--------------|-------|

|             |  |  |   |
|-------------|--|--|---|
| 1<br>学<br>期 | <p>1. 歌唱<br/>「花」(滝廉太郎)<br/>「Amazing Grace」<br/>「きみとともに」<br/>「帰れソレントへ」</p> <p>2. 器楽<br/>「ブルタバ (モルダウ)」<br/>「トリステータ」</p> <p>3. 鑑賞<br/>「ブルタバ (モルダウ)」<br/>(スメタナ)<br/>「ボレロ」(ラヴェル)</p>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・滝廉太郎について学習する。</li> <li>・詩の内容や、言葉と旋律の関係を大切に<br/>して、2部～3部合唱をする。</li> <li>・曲の仕組みを調べて表現を工夫する。</li> <li>・息の流れに気をつけて、のびのびと歌う。</li> <li>・イタリア風土、カンツォーネについて学<br/>ぶ。</li> <li>・イタリア語でのびのび表情豊かに歌唱す<br/>る。</li> <li>・同主調について理解する。</li> <li>・親しみやすい曲を通して、2重奏を楽し<br/>む。</li> <li>・ソプラノとアルトのアンサンブルを通し<br/>て、2～3重奏を楽しむ。</li> <li>・スメタナについて学習する。</li> <li>・情景を思い浮かべながら鑑賞する。</li> <li>・チェコの風土について学習する。</li> </ul>   | <p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽への関心、意欲、<br/>態度</li> <li>・音楽的な感受や表現<br/>の工夫</li> <li>・表現の技能</li> <li>・鑑賞の能力</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <p>1. 期末考査<br/>楽曲の生まれた背景や<br/>詩の内容、作詞・作曲<br/>者、器楽、楽典について<br/>などの知識・理解を問<br/>う問題を出題する。</p> <p>2. 実技テスト<br/>曲種に応じた発声や美<br/>しい言葉の表現、曲の<br/>仕組みを生かして、曲<br/>にふさわしい歌唱表現<br/>を身につけているか、<br/>曲にふさわしい音色や<br/>奏法を感じ取り、それ<br/>を生かして表現をする<br/>技能を身につけている<br/>か等を評価する。</p> <p>3. ノート<br/>プリント教材の整理、<br/>学習ノートが作成でき<br/>ているか。</p> <p>4. 授業の取り組み<br/>集団行動に参加し、自<br/>己の表現が主体的、対<br/>話的にできているか等<br/>を評価する。</p> |
| 2<br>学<br>期 | <p>1. 歌唱<br/>「花の街」(團伊玖磨)<br/>「きみとともに」<br/>「Let It Be」<br/>「花は咲く」</p> <p>2. 器楽<br/>「I Got Rhythm」(ガーシ<br/>ュイン) プリント教材 等</p> <p>3. 鑑賞<br/>「ポピュラー音楽」</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・團伊玖磨について学習する。</li> <li>・詩の内容や、言葉と旋律の関係を大切に<br/>して、歌唱する。</li> <li>・英語の歌詞で、のびやかに歌う。</li> <li>・ポピュラー音楽について理解する。</li> <li>・ビートルズとその影響について考える。</li> <li>・電子楽器の活用を工夫する。</li> <li>・アーティキュレーションや、高度な運指に<br/>気をつけて演奏する。</li> <li>・ポピュラー音楽の成り立ち、今日における<br/>役割について学習する。</li> </ul>  |   |
| 3<br>学<br>期 | <p>1. 歌唱<br/>「早春賦」(中田 章)<br/>「忘れることなんかでき<br/>ない」「旅立ちの日に」<br/>「大地讃頌」等</p> <p>2. 器楽<br/>プリント教材 等</p> <p>3. 鑑賞<br/>尺八曲「巢鶴鈴慕」<br/>能・謡「敦盛」<br/>「世界の諸民族の音楽」<br/>「耳でたどる音楽史」等</p> <p>ルールを守って音楽を楽<br/>しもう</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・吉丸一昌、中田章について学習する。</li> <li>・詩の内容や、言葉と旋律の関係を大切に<br/>して、歌唱する。</li> <li>・混声合唱を通して、ハーモニーの美しさを<br/>感じ取りながら歌う。</li> <li>・アーティキュレーションや、高度な運指に<br/>気をつけて演奏する。</li> <li>・様々な楽器を用いて器楽合奏をする。</li> <li>・日本の伝統音楽、伝統芸能に触れる。</li> <li>・世界の諸民族の音楽に触れる。</li> <li>・西洋と日本の音楽史を学習する。</li> <li>・日本の楽器と西洋の楽器の交わりを学ぶ。</li> <li>・国境を越えて影響し合う音楽の大切さを<br/>理解させる。</li> <li>・ルールを守って音楽を楽しむ必要性を理<br/>解させる。</li> <li>・生涯にわたって生活と共にしていく音楽、<br/>自分にとっての音楽について考える。</li> </ul> |   |